

カーブドッチ
有限会社 角田山農園
(新潟県新潟市西蒲区)

～ 農福連携でワイン用品種のぶどうを栽培 ～



角田浜のぶどう畑



福祉事業所によるぶどうの除葉作業



収穫したぶどうからできたワイン

経緯

- カーブドッチは、ぶどう生産部門、ワイン醸造部門、加工部門、販売部門、スパ&ホテル部門等で構成。
- 最初にぶどうを栽培したのが平成4年。角田浜の砂地の畑に、毎年堆肥を入れ土壌改良し、草生栽培（積極的に草を繁茂させて地表面を被覆保護する方法）や減農薬栽培等を展開。現在、角田浜で8haを栽培し、南区で5haの契約栽培を行い、自家醸造ワインを製造・販売。
- 角田浜のぶどう畑では、房の風通しを良くし病気等を防ぐ除葉等の作業に人手が必要なことから農福連携の取組を始める。

取組

- ぶどうの栽培面積が拡大する中、平成27年から農福連携の取組を始め、平成29年は5月～10月の間に、13の福祉事業所に合計197回の作業をお願いした。
- 角田浜のぶどう畑では、手仕事が必要な期間に大人数で福祉事業所の方々から手伝ってもらえることが最大のメリット。作業をお願いする時は、ぶどうの木に目印の紐を付ける等の工夫をしている。
- 障がい者の皆さんに実際に作業を体験してもらい「おたすけ隊」になってもらう、作業体験説明会を実施。

今後の展望と課題

- 角田浜の8haのぶどう畑は、リタイヤ等した農家から農地を借りているが、点在している状況であり、今後は集約化が課題。
- 平成29年までは部分的な作業を福祉事業所に委託してきたが、平成30年からは、除草・除葉・誘引・摘芯・収穫までの一連の作業を農福連携で取り組みたい。
- 更なる農福連携の取組を展開し、ぶどう畑を拡張してワインの生産量を増やし、日本一のワイン産地を目指す。